

## サラワク王国と日沙商会～ゴムの栽培から製造まで一貫体制を構築

神戸製鋼所の専務であった依岡省輔(1873～1937)の兄・依岡省三(1865～1911)は、冒険家として知られる。当時、どの国にも属していなかった硫黄島を日本領土に編入するように日本政府に提言。また、金子直吉と初めて面会した際には、ボルネオ島北部のサラワク王国(現在のマレーシア・サラワク州とブルネイの一部)に、ゴム園の経営を提言。金子直吉は危険を顧みない省三とすぐに意気投合した。



依岡省三



日沙商会

当時、サラワク国王は外国人には土地を貸さないといわれていたが、見事に口説き落とし、農園の租借権を得て、日沙商会を設立。同社は、鈴木商店系の東工業のゴム事業(現・ニチリン)も継承して、ゴムの栽培から製造まで一貫体制を構築した。しかし、省三は一時帰国中にマラリアによって急死。弟の省輔が意思を引き継ぎ、日沙商会の社長を兼務することとなり、日本とサラワク王国との貿易そして友好に尽力する。昭和4(1929)年、日沙商会の企画・立案でサラワク国王夫妻の来日が実現。これをきっかけに沖縄からの米作移民が入植し、日本とサラワクの友好関係はさらに深まったといわれている。



依岡省輔



昭和4(1929)年、サラワク国王夫妻の来日が実現。ラジャ・ヴァイナー・ブルック国王一行と日沙商会幹部(後列左から2人目が依岡省輔)

## 日本綿花本店ビルは、戦後、日銀大阪支店分館に



明治42(1909)年に竣工した日本綿花本社ビル(右)。  
左は昭和28(1953)年に完成した新社屋

明治42(1909)年に中之島2丁目に建てられた日本綿花本社ビルは、石造2階建ての洋式建築で、当時大阪では代表的な名建築として知られ、各地から見物に来たという話が伝わっている。昭和28(1953)年に、その西隣に新社屋が完成するまで44年間、本社事務所として使用され、その後、日本銀行大阪支店分館として長らく使用されていた。

## 岩井勝次郎と座禅

勝次郎の生活には仕事と禅以外に何物もなく、1日少なくとも3時間は座禅をしていた。毎朝暗いうちから下男と一緒に竹箒を持って自宅の前を掃除し、雨の日も風の日もこれを怠ることなく、健康維持の方法として独特の強固な意志をもってこれを続けた。

別子銅山の大紛争を解決した住友の伊庭貞剛から座禅を紹介されたことがきっかけで、短気な性格を矯正したいという思いもあった。



勝次郎が晩年に設立した長岡禅塾



岩井勝次郎の趣味は禅